

日本テコンドー協会法・試合法 全日本FT大会 個人戦蹴武型 新ルール

2016年2月24日

日本テコンドー協会

宗師範 河 明生

日本テコンドー協会（JTA）が普及するのは、

JTA七大精神に基づく武道・日本跆拳道であり、その魂は蹴武の型である。

2015年9月15日、日本跆拳道創始者在世中に蹴武の型がすべて創始完成された。

それに伴い全日本FT大会における蹴武の型新ルールを定める。

2016年3度より全日本FT大会予選会一部蹴武の型試合に限り新ルールを採用するものとする。

二部以下および少年少女部蹴武の型は従来通りとする。

言己

第1条 全日本FT大会 蹴武の型 個人戦決勝戦

1、選手はAブロック、Bブロック、Cブロック、Dブロックの4ブロック毎にトーナメント戦を行う。

2、4ブロックはすべて男女混合とする。

女子ブロックは女子選手の蹴武の型技術力向上に基づき廃止する。

男子と同じ条件で戦うという精神性を涵養することが女子の社会的進出に資すると考える。

3、ブロック勝者4名は決勝戦を行う。

①1名ずつリング上で、予め申請した自由型を演武し、審判協議の上、順位を決定する。

②予め申請した自由型がブロック毎のトーナメント戦で演武したものであっても可とする。

③自由型の演武を失敗した場合は、失格とし、表彰しない。

たとえば、4名全員が失敗した場合、表彰者なしとする。

2名失敗した場合、優勝者および2位を表彰するものとする。

第2条 全日本FT大会予選会 個人戦決勝戦と3位決定戦

- 1, 予選会は関西大会を除き男女混合試合とする。
- 2, 予選会決勝戦および3位決定戦は自由型を演武するものとする。
 - ①自由型を同時に演武し、旗揚げで順位を決定する。
審判3名中、2名以上が勝利を認定しなければならない。
 - ②自由型がすでにトーナメント戦で演武したものであっても可とする。
 - ③自由型の演武を失敗した場合は、失格とし、表彰しない。
たとえば、決勝戦でいずれも失敗した場合、3位のみを表彰する。

第3条 全日本FT大会および予選会 非決勝戦・非3位決定戦 指定型

- 1, 決勝戦および3位決定戦以外は、予め指定されている蹴武の型で試合を行う。
選手は同じ型で勝敗を決するものとする。
- 2, 本戦および延長戦における予め指定されている蹴武の型「蹴武の型指定封書」
審判の公平性を担保すべく次のように定める。
 - ①予め指定されている蹴武の型は「蹴武の型指定封書」に記されている。
 - ②主審は当日渡された「蹴武の型指定封書」を開封し、型名を読み上げる。
 - ③延長戦も主審が「延長戦・蹴武の型指定書」を開封し、型名を読み上げ同じ型で勝敗を決する。

第4条 全日本FT大会および予選会 非決勝戦・非3位決定戦 指定型3類系

予め指定される蹴武の型は、次の3類系に分類され、

その中の一つを「蹴武の型指定封書」または「延長戦・蹴武の型指定書」で指定するものとする。

たとえば、「蹴武の型指定封書」の表題に「士系・刀槍系」と記されていれば、
義家、清衡、謙信、武蔵の4つの中から1つ指定されている。

1, 士(サムライ)系および刀槍(トウソウ)系

1) 士系とは 演武線が「士」類似の蹴武をいう。

①謙信

②武蔵

2) 刀槍(トウソウ)系

刀槍系とは演武線が「刀」と「槍」類似の蹴武の型をいう。

①清衡

②義家

2, 静流円麗(セイリュウエンレイ)蹴り系

静麗蹴り、流麗蹴り、円麗蹴りが重視される蹴武の型群である。

①柳韓

②忠武

③若光

④乙支

3, 四方蹴り系

四方蹴りが重視される蹴武の型群である。

①関羽

②張良

③聖徳

本法は、2016年3月1日より施行する。